

世の中には信じられない こんな巨大な牛が実在した

現在、世界にはおよそ二百種類の牛がいるが、どんなに大きくしても体高（き甲^ほ頸^のの付け根、第六く七胸椎^{きょうつゝい}の一番高い所^しから地面までの垂直距離）一・八^{メートル}、体重千八百^{キログラム}、というところだろう。

普通の牛ならせいぜい一・四^{メートル}、八百^{キログラム}だ。

ところが、化け物のように大きい牛が二十世紀初頭に存在していた。

ジェラルド・L・ウツドの『ギネスワールド動物』によると、ヘレフォード・シヨートホーン種（ヘレフォード種は世界中に最も広く分布している肉牛で、きわめて頑健で良質の肉が生産される。

シヨートホーン種は近代的な育種原理で選抜されたイギリス原産の品種で、アメリカでは最も重要視された品種であった。この二種類をかけ合わせた「オールド・ベン」という名の牛で、何と二千四百四十^{キログラム}もあった。

この牛はアメリカのインディアナ州北部のマイアミ地区のマイク&ジョン・マーフィーが所有しており、一九二〇年二月に八歳（牛・馬は数え歳）で死んだが、そのときの測定では鼻から尻尾の先までが四・九二^{メートル}、胴回りの最も太いところは四・十六^{メートル}、体高が一・九三

メートルもあった。

このオールド・ベン号は、同州ココモ市（州都インディアナポリス市の北約九十^{キロメートル}）のハイルランドパーク博物館に剥製として展示されているが、もしこれが残っていなければ、「そんな大きい牛なんているはずがない」というに違いない、とても信じられない大きさである。

同書には剥製の写真が掲載されているが、子供が手を伸ばしてやっと鼻先に届く状態である。

同書にはさらに、アメリカのマサチューセッツ州のJ・D・アベリーが飼っていた「マック」という牛は、死亡時に体重二千九十九^{キログラム}。あったと紹介している。

